

同窓会に入るにあたり

五十三年卒 菊地 章

昭和四十九年、四月に電気工学科に入学して以来、今思えばあつたという間に過ぎた四年間でした。めでたく卒業できると同時に今まではあまり関心もなかつた同窓会への勧誘があり同窓会にいつかへのコンタクトとなつたわけです。はからずも電気科に院生という形を残ることになりました。私に本年度、ニューカマーの一人として本誌への寄稿を依頼され文章は、とんと苦手ながらなんとか書いてみることにしました。

私としてみれば電気科同窓会なるものがないかある会ではないような活動をしているのか学部生時代には、まさか知りず(あるいは知る必要もなかったのですが)突如として表らわれたという感じさえするのです。一般に言う同窓会なるものは、かかわりあいのない者にとつては有名無実で、時には忘れ去られてしまふ存在であることを否めません。現に私の中等あるいは高校時代の同窓会などは卒業以来まったく縁が切れてしまっている状態です。それらと電気科同窓会とを単純に比較はできないと思ひます。学部生時代でさえ人数がそれだけでも多く、すべての人を把握できない状態にあるのに同窓会に入らなかつたとして何の利益があるだろうかという意見を否定はできないと思ひます。しかし、学科創設以来の卒業生の会といふ、いわば同窓の飯を食つた仲間の後進生という貴重な材料があるのを見つめては、ほろほろと思ひます。第一期以来、諸先輩方はあらゆる企業に、あるいは教職研究職に就かれ活躍されていることと思ひます。この同窓会には自らの親睦という目的もあることながら母体の

電気科のためならんと感じられたものと推察いたします。私の様なニューカマーは今は何の役にも立ちませんが、いすれ会の一員として何らかの役に立つ時が来るかもしれません。これからも諸先輩方の御指導をさぐりたく願ひいたします。

何か始めから同窓会の批判めいた文章に可哀しいなりました。新会員の一人としての挨拶にかえさせていただけたいと思ひます。

昭和五十三年 四月

オニ十二回 同窓会

幹事会社の一員より

昨年の同窓会へ参加者は百名を越え、なかなか盛況でした。これは偏りに学外幹事会社の諸兄のご協力と、学内会員の諸先生のご協力の賜と深く感謝致しております。今までの幹事会社・八洲電機東京芝、日本IBMの後を継いで、今回はYHPの会員グループにより企画し、五月二十七日に新宿の「豪華」で開催する運びになりました。

当日はYHPグループがお手伝い致しますとともに、綺麗どころも揃え皆様のお越しをお待ち致します。何卒一人でも多くのご参加を、心よりお願い申し上げます。

この同窓会を皆様の親睦の場として、横の繋がり、ほろほろ、縦の繋がり、懇話会を求め、有意義に過ごして戴ければ幸いです。

YHPグループ 幹事
一期 吉江 実成彦

二十年会にもせて

四期 遠藤正雄

昨年春卒業二十年会を開催した。開催地が中央大
 学音楽山寮で、東京から遠かった為、左瀬先生、東、後生
 主には残念ながら御出席預けませんでしたが、吉々光
 生、山下先生に御出席頂き、また地方からも多数の親
 友が参加して盛大な会となった。何しろ卒業後初めて会う
 親友も多く、また貴様がついて会った瞬間は誰だったかわ
 からず暫く考える人がいたりで、テンマワニマの光景が
 展開されたことは御想像預けると思います。又方
 かり軍会が初まったが、昔々酒豪が大勢集ま
 った時には、酒の消費量が少ないのには驚いた。一方
 話はつまることなく、あつという間に十二時をまわり
 一忘床についた次第。

我々の卒業、年も並年同様、不景気であったと
 思う。その中に果立って二十年、会社の最前線に働き
 現在の地位を得、また止家な家庭を築いてきた事
 は、それぞれ会話を通してありありとうかがわれた。
 皆んば気持ちよければ若いつもりだが体がついで行かなく
 ば、たというのが本音で、これから健康に留意
 して頑張ろう。そしてまたの再会を共に喜び
 会おうことを約束して清別。

私の清涼剤

五十二年卒 中嶋晴明

休日の朝日をこまると、私はコーヒーを一杯飲みます。

コーヒーをミレでひく時のあの香り、どんな豪華な料理
 もりもすばらしい。そしてコーヒーを入れて飲みます。そんな
 時、言葉で言い表わせない深い、いい気分になります。
 就職して一年、まだまだ慣れないこともあって気疲れ
 も多いのですが、ゆとりとして飲む一杯のコーヒーが疲
 れを吹き飛ばしてしまいます。こうして私の休日が始まり
 ます。

そして次がドライブです。初めてもらったボクサーをは
 たいてセツと買ったホンコン車に乗って一日中走り回
 ります。私の家からは秩父の山々まで約二時間、地図と
 カメラを従えてのドライブは快楽そのものです。途中
 で目にとまったもの、何もありません。花畑でも山の
 姿でも、とにかく何か感じるものがあつた時にシッ
 ターをさります。仕事かうまく行っている時、誰に
 うまく行っていない時、その時々によって感じるものが
 違います。気分がいい時には大きなものを撮りてみ
 たくなるし、その反対の時には、道端の小さな花な
 どを撮りてみたくなります。こうして少し走っては止
 まり、また少し走っては止まりして写真を撮ります。い
 つの間にもうまい写真は撮れませんが、被写体に向
 てカメラをさぐる時のあの感じがまた格別です。
 一杯のコーヒー、ドライブ、そして写真。三つを
 文章に書いてみるとたわいもないことですが、この三
 つが仕事の疲れをいやし、吹き飛ばしてくれま
 す。これが私の清涼剤です。

同窓会 会計報告

	昭和51年度	昭和52年度	
収入	前年度繰越金	1,234,607	
	51年度総会費	411,000	
	預貯金利息	11,764	70,342
	名簿売上代		2,000
	終身会費	529,000	468,000
	その他寄附金	10,000	
	2,196,371	1,973,768	
支出	総会費	428,028	
	通信及印刷費	264,265	
	事務運営費	28,294	
	アルバイト代	40,290	
	名簿関係費(印刷・通信・アルバイト)		900,980
	庶務費	1,430	630
	52年度繰越金	1,433,426	1,072,158
		2,196,371	1,973,768

会計幹事……志村公夫， 会計監査……服部修一

すくなくも簡単なにはあるが、
 者まで我々の一緒に出発している。
 釣道具等も、
 「割引で買える」(小生は金身屋の廻り者には)
 新着な着き食、
 我々の心にも、
 者でどうもという方は、
 うに出発したいと願っています。
 (ワサコビララ、会費)

編集後記

昭和53年から本校が駿河台校舎から分大校舎に
 移転しました。と準備のため昭和52年度の学年歴が
 大幅に変わり、その為幹事会開催が遅れてしまい、52年
 度(53年3月末まで)の総会開催が不可能となってしま
 いました。そこで今回は変則的ではありますが、52年度と53年
 度との総会を同時開催の仕方になりました。
 2月9日(木)幹事会には大類会長初め、副会長、学
 内委員多数出席して夜10時過ぎまで熱心な討論
 がかわされました。今回の総会には会長改選を初
 めとしてかなりの規約改訂が予定されており、
 詳細は、総会で御説明致します。

「毎年のことながら、同窓会事務は、市川幹事を
 主力として電気工学科事務員、西山のり子さん
 出村裕紀さんの二人のお嬢さんにお願してい
 ます。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。
 (4期 M.E 記)

会員異動

- 51年度 西山清之君 御結婚 昭和53年2月10日
- 電気科事務員 松浦紀子様
- 46年度 佃 大隆君 御結婚 昭和53年11月28日
- 教授 北村寛一先生 昭和53年3月より同年8月に
アメリカMITに御留学
- 助教 高橋雄道先生 昭和53年3月
- 面談員 ミンハン工科大学留学(2年間)より帰国
- 45年度 永田邦裕君(阪大勤務) 昭和53年3月
- 西ドイツザルランド大学(研究員3年間)より帰国
- 45年度 黒沢直之君
- 昭和52年 改姓 → 入沢直之

45年度 小山育夫君(山武ハネビル勤務) 52年 札幌に転居
 45年度 後山和由君(保善会) 52年 名古屋に転居